

すべての取組のうち、主な取組の進捗状況を掲載しています。

視点1 安心・安全な冬期道路交通の確保

(1) 効果的な除排雪の推進

① 幹線道路の除排雪

4 バス路線の除排雪作業の強化

実施内容

「路肩の狭いバス路線」について、排雪強化を行う路線（延長）を段階的に増やしていきます。

実施目標

	2022末	2023	2024	2025	2026	2027
目標	—	←		累計強化延長		→
		152km	182km	213km	244km	275km
実績	129km	159km				

② 生活道路の除排雪

10 生活道路の除排雪方法変更に向けた検討

実施内容

高齢化の進行などによる将来的な除雪従事者の減少や、市民の出入口前の雪かきに対する負担感の増大など、市民ニーズの変化から除雪作業全体の効率化を図るとともに、出入口の雪処理に関する負担を軽減できるよう、様々な観点から生活道路の除排雪方法の変更に向けて検討します。

実施目標

	2022末	2023	2024	2025	2026	2027
目標	—	←		様々な観点で試行と検証を継続		→
実績	試験施工 約168km + 検証など	試験施工 約118km + 検証など				

③ ロードヒーティングによる路面管理

34 老朽化したロードヒーティングの計画的な改修

実施内容

目標耐用年数を超過したロードヒーティングが今後大幅に増加してくることから、年度ごとの偏りを避けた計画的な改修の実施により、将来的には目標耐用年数の超過を解消し、ロードヒーティングの適切かつ持続的な運用を図ります。

実施目標

	2022末	2023	2024	2025	2026	2027
目標	—	←		計画的な改修 (3,500~7,000 m <sup>2</sup> /年で検討)		→
実績	3,500m <sup>2</sup> を修繕	2,633m <sup>2</sup> を改修				

すべての取組のうち、主な取組の進捗状況を掲載しています。

(3) 大雪に備えた体制の確保

① 「大雪時の対応指針」を基本とした体制の確保

② 大雪に備えた情報発信

- 35 「大雪時の対応指針」に基づいた迅速かつ適正な対応
- 36 「大雪時の対応指針」に基づいた雪堆積場の搬入量の確保
- 37 初冬期の大雪に対する臨機な対応
- 38 局地的な大雪に備えた地区を超えた応援体制の維持
- 39 警報発表時における市民への注意喚起
- 40 市民や観光客に対する情報発信

実施内容

大雪時における除排雪の体制や具体的な行動計画などを定めた「大雪時の対応指針」に基づき、大雪時は、全庁的に情報共有を図りながら、迅速かつ適切に対応します。  
また、大雪に備えた関係機関等との連携強化など、さらなる検討や調整を進め、大雪にも強く、持続可能な除排雪体制を確保していきます。

実施目標

	2022末	2023	2024	2025	2026	2027
目標	-	対応指針に基づく対応・情報発信拡大に向けた検討 大雪に備えた体制確保のさらなる検討・調整				
実績	2022.11 大雪時の対応指針 改正	指針に基づいた 各種取組を継続				

すべての取組のうち、主な取組の進捗状況を掲載しています。

視点2 除排雪作業の効率化・省力化

(1) 作業の効率化・省力化による生産性の向上

① 作業の効率化・省力化

41 除雪機械の1人乗り化

実施内容

将来的な除雪従事者の減少時に対応できるよう、冬みちプラン2018策定時における除雪従事者の将来推計に合わせて1人乗りが可能な除雪機械を導入します。

実施目標

	2022末	2023	2024	2025	2026	2027
目標※	-	←		累計導入台数 304台	→	→
実績	175台	218台	261台		347台	390台

※各年度末時点における導入台数。

42 雪堆積場等選定システムの構築

実施内容

排雪作業で使用するダンプトラックや雪堆積場等の効率的な運用を図るため、ICTを活用して全市的な視点で排雪現場からの搬入先を選定するシステムを構築します。

実施目標

	2022末	2023	2024	2025	2026	2027
目標	-	←	システム構築	→	段階的に運用	→
実績	システム構築	システム改良及び 運用調整				

43 除雪機械の運行管理の効率化

実施内容

オペレーター等による新たな負担を要せずに作業状況を可視化するとともに、除排雪作業の執行管理の効率化を図るため、GPSを活用した位置情報に加え、速度・走行時間・走行距離・エンジンの回転数等を記録する端末の導入の検討や、それらを踏まえた執行管理等システムの再構築を行います。 ※76 作業日報などの提出書類の電子化システムと一体開発

実施目標

	2022末	2023	2024	2025	2026	2027
目標	-	-	←	執行管理等システム 再構築の検討	基本設計	システム 構築
実績	-	-				

すべての取組のうち、主な取組の進捗状況を掲載しています。

44 ビッグデータを活用した作業支援の検討

実施内容

除排雪の作業判断や隣接区との調整が容易となるよう、気象データ、映像・画像データなどのビッグデータの活用を検討します。

実施目標

	2022末	2023	2024	2025	2026	2027
目標	—	事例調査	試行・検証		活用可能なデータ導入	
実績	事例調査	事例調査				

(2) 雪対策施設の安定的・効率的な運用

① 雪堆積場

47 雪堆積場の運用見直し

実施内容

雪堆積場管理作業の効率化や雪堆積場従事者の労働環境改善に向け、RFタグを活用した車両管理システム及び一般排雪車両の画像解析の導入を進めます。

実施目標

・屋外型

	2022末	2023	2024	2025	2026	2027
目標	—			本格運用		
実績	本格運用	本格運用				

・室内型

	2022末	2023	2024	2025	2026	2027
目標	—	部分運用	本格運用			
実績	システム開発	部分運用				

・一般排雪車両の画像解析

	2022末	2023	2024	2025	2026	2027
目標	—	システム検討	システム構築		本格運用	
実績	画像素材収集	システム検討				

すべての取組のうち、主な取組の進捗状況を掲載しています。

(2) 雪対策施設の安定的・効率的な運用

② 雪処理施設

52 雪処理施設の大規模改修

実施内容

融雪施設や流雪溝などの雪処理施設は計画的な修繕によりできる限り延命化を図ってきましたが、今後は大規模な改修が必要であり、多くの雪処理施設は水再生プラザ内にある下水道施設を活用していることから、下水道施設の改築計画に時期を合わせて実施し、施設の持続的な運用を図ります。

実施目標

	2022末	2023	2024	2025	2026	2027
目標	—	下水道施設の改修時期に合わせて実施				
実績	—	—				

53 新たな融雪施設の整備

実施内容

雪堆積場の郊外化に加え、排雪作業に必要なダンプトラックの確保が困難な状況が続いていることから、ダンプトラックの運搬距離の縮減や必要台数の低減につながる新たな融雪施設の整備を進めます。東部水再生プラザの処理水を利用した融雪槽や下水道管を流れる未処理下水を利用した地域密着型雪処理施設の整備を進めます。

実施目標

・(仮称)東部融雪槽の整備

	2022末	2023	2024	2025	2026	2027
目標	—	実施設計	工事		本格運用	
実績	実施設計	実施設計		試験運用		

・新たな地域密着型雪処理施設の整備

	2022末	2023	2024	2025	2026	2027
目標	—	候補地選定	基本検討	実施設計	工事 試験運用	本格運用
実績	候補地選定	候補地選定				

すべての取組のうち、主な取組の進捗状況を掲載しています。

視点3 除排雪体制の維持・安定化

(1) 経営の安定化につながる取組の推進

② 除排雪作業に必要な人材の確保

65 除雪事業に参画する企業の人材確保への支援策

実施内容

建設産業活性化の取組と連携し、除排雪作業の意義や建設業の魅力など、札幌市の除雪事業に参画する企業のイメージアップにつながる情報を札幌市のホームページで発信、及び高校や大学へのPRを行います。

実施目標

	2022末	2023	2024	2025	2026	2027
目標	—			発信可能なものから情報を発信		
実績	・ホームページでの動画配信 ・職業体験イベントによる魅力発信	・ホームページでの動画配信 ・職業体験イベントによる魅力発信				

(2) 除雪従事者の定着・育成支援

① 労働環境の改善

76 作業日報などの提出書類の電子化

実施内容

除雪作業日報作成支援システム、RFタグを活用した車両管理システム、一般排雪車両の画像解析の導入、及び執行管理システムの再構築を進めます。

実施目標

	2022末	2023	2024	2025	2026	2027
目標	—		システム構築			
実績	【部分運用】 走行軌跡表示 車両運転日報	【部分運用】 ・除雪機械へのGPS搭載(810台) ・システム改良、運用拡大 ・道路ネットワークデータの更新		【部分運用】 当初設計登録 業務計画作成	【本格運用】 作業実績登録	本格運用

77 市民対応の効率化の検討

実施内容

ICTを活用した情報共有システム(電話対応記録の一元管理など)の導入を見据え、電話対応の効率化を図ると共に、問い合わせ件数が少なくなる時間帯における待機時間縮減に向けた、除雪センターの体制について検討します。

実施目標

	2022末	2023	2024	2025	2026	2027
目標	—	事例調査		市民対応の体制検討		
実績	事例調査	事例調査				

すべての取組のうち、主な取組の進捗状況を掲載しています。

視点4 雪対策における市民力の結集

(1) 市民と行政との協働の推進

① 市民と行政の役割

86 除雪ボランティア活動に対する支援

実施内容

現在実施している除雪用具貸出制度などに加え、除雪ボランティアの拡大につながる更なる支援策を進めます。

実施目標

	2022末	2023	2024	2025	2026	2027
目標	—	←		ボランティア実施団体	→	
		142団体	144団体	146団体	148団体	150団体
実績	140団体	142団体				

視点5 雪対策に関する広報の充実

(2) 多様な手法を活用した効果的な広報・啓発

① 情報発信型の広報

100 様々な広報ツールを複合的に活用した情報発信

実施内容

新聞やテレビなどの注目度の高いメディアに加え、SNSやデジタルサイネージなど新たな広報ツールを複合的に活用し、効果的な広報を実施します。

実施目標

	2022末	2023	2024	2025	2026	2027
目標	—	←		効果的な広報を実施	→	
実績	テレビ、デジタルサイネージ及びSNS (LINE、Twitter)、劇場CMにより情報発信	テレビ、デジタルサイネージ及びSNS (LINE、X) により情報発信				